

学校教育目標	夢・志をもち、社会を「生き抜く力」を育む ～自立・自律・自学～		総合評価
運営方針	○使命感・責任感・情熱をもって取り組む教職員集団で、子どもたちが「元気に登校 笑顔で下校」する学校づくりを推進して、「社会を生き抜く力」を育てる。 ○3G(言語活動、五條学、学校運営協議会)を大切にされた学校づくりを推進して、保護者や地域の人々から愛され信頼される学校を目指す。 ○15歳の目指す姿を求め、小中一貫教育を推進する。		B
令和4年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	
○単元計画の可視化や学習の見通しをもたせたことで、「国語の授業がわかりやすい」と答えた児童が8割を超えた。 ○構成的グループエンカウンターなどの取組により、95%の児童が「友だちや周りの人を大切にしている」と答えた。 ○外遊びチャレンジに学校を挙げて取り組んだことで、目標を大幅に超える登録数となり、「体を動かすことが好きだ」と答えた児童も目標を超える結果となった。 ●学習意欲や読書意欲に二極化がみられ、それにもない学力も二極化もみられるため、子どもたちの「粘り強さ」や「主体性」などの非認知能力を高めていく必要がある。 ●「学校が楽しい」と答えた児童が目標に届かなかったことから、児童会活動等を活性化させていくことで改善につなげたい。 ●ゲームや動画視聴などの過剰利用による生活習慣の乱れがあり、規範意識の低下や学習意欲の低下につながっていると考えられるため、正しい利用について継続して指導していく必要がある。	◎確かな学力をつける。	○あきらめずにやりぬく力や自ら考え発見したり、解決したりする力を培い、主体的に学ぶ児童を育む。 ○学習習慣と読書習慣を定着させ、自主学習の充実と質の向上や、豊かな心と自ら学ぶ力の育成を図る。	
	◎豊かな心を育てる。	○自分から進んで気持ちのよいあいさつを交わし、他者との関わりの中で、伝え合い、認め合える児童を育成する。 ○五條の「ひと・もの・こと」に出会い、五條の自然や生活、歴史や文化、人々の良さに気づき、発信することを「五條学」と位置づけ、地域に誇りをもつ児童を育成する。	
	◎心身ともに健康健全な生活を目指す。	○学校教育全体を通して、「いじめのない学校づくり」を目指し、学校生活の中で、児童が明るく生き生きと活動できる環境づくりに努める。 ○児童が自ら進んで規範意識と基本的な生活習慣を身につけようとする意識を高める。 ○様々な運動に対しての体の動かし方やコツがわかる授業作りと、体育的活動を充実させ、児童の体力の向上と運動好きの増加を図る。	
	◎教職員の働き方改革を推進する。	○教職員が心身共に健康で、充実した教育活動を行える環境を整える。	

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
確かな学力をつける。	○あきらめずにやりぬく力や自ら考え発見したり、解決したりする力を培い、主体的に学ぶ児童を育む。	系統的に基礎・基本の力を身に付ける取組を実施し、標準調査全国平均を目指す。	C	●全国平均との差が国語で-4.2ポイント、算数で-3.5ポイントと、昨年度よりも全国平均に迫ることができたが、全国平均には至らなかった。 ●学習意欲と学力に二極化が見られる。 ○「授業が楽しい。」と回答した児童が92%に達した。 ●「授業が楽しくない。」と回答した児童が一定数いるため、さらに授業研究を重ねていく必要がある。 ●意欲的に自主学習に取り組む児童が75%と、目標には届かなかったが、質の高い自主学習に取り組む児童は増えた。 ●意欲の継続が難しいため、年間を通してみると、二極化がみられる。 ○隙間時間を見つけて、本を読む児童が増えた。 ●読書目標達成児童は7割ほどにとどまり、目標数値には達成することはできなかったが、昨年度よりは数値が上がった。	・「読み」「書き」に重点を置いた、五條小学校が考える「基礎基本の力」を身につけさせるため、漢字の書き取りに力を入れる。 ・東京書籍の学力テストの結果と子どもの書き込みを分析して、資料等への「書き込み」の指導をすすめる。 ・子どもが、「わかる」「できる」と実感できる授業が提供できるよう、研究授業や公開授業等で、個々の教員の授業力向上を図る。	・読書活動が随分と活性化しているように見受けられる。今後も子ども達がワクワクするような取組を継続して欲しい。 ・国語の授業で、自分の意見の根拠となる内容を文中から抜き出す等、読解力を鍛えるための取組を今後も進めていきたい。 ・主体的に自主学習に取り組む児童の割合が高くなっていると感じる。今後も子ども達が意欲的に取り組むことができるよう、うまく褒めて更に質の高い学習となるようお願したい。 ・楽しい授業とは何かを考え、わかりやすい授業、休んでしまおう子がいらないよう工夫した授業をすすめてほしい。
	○学習習慣と読書習慣を定着させ、自主学習の充実と質の向上や、豊かな心と自ら学ぶ力の育成を図る。	五條中部学園「自主学習の手引き」を活用し、モデルを通して、意欲的に自主学習に取り組む児童を8割以上にするとともに、質の高い自主学習ノートの実現に向けた取組を充実させる。 図書館司書(ブックソムリエ)との連携のもと、「読む・知る・つながる」をテーマにした読書活動の活性化を図ることで児童の読書意欲を高め、読書量目標(低学年40冊、高学年4000ページ)達成児童を8割以上にする。	B			
		児童の自尊感情の向上を図るために、構成的グループエンカウンターやピアサポートなどの取組を推進し、自他を思いやる気持ちを養い、学校が楽しいという児童を9割以上にする。	B			
豊かな心を育てる。	○自分から進んで気持ちのよいあいさつを交わし、他者との関わりの中で、伝え合い、認め合える児童を育成する。	小中合同の挨拶運動の実施と児童主体の挨拶運動(5Gプロジェクト)を進め、年間を通して挨拶に対しての意識を高くもたせ、自主的に挨拶する児童を9割以上にする。	B	○5Gや挨拶名人などの取組の効果が現れ、挨拶をする習慣が付き、継続的に挨拶する児童が増えた。 ●「近所や地域の人たちに進んであいさつしている。」と答えた児童が78%と、目標には届かなかった。 ○「自分は、友達や周りの人を大切にしている。」と回答した児童の割合が98%に達した。 ●「学校が楽しい。」と回答した児童の割合は86%と、目標に及ばなかった。	・日頃から挨拶名人カードを持ち歩き、自分から挨拶できた児童に渡していく。5Gメンバーを学年初めに紹介し、学期末に表彰して意欲を高める。 ・ピアサポート、エンカウンターなどの取組を継続して行っていく。 ・人権教育推進年間計画をもとに、人権月間に「なかとともに」を活用した授業を行う。 ・多様な人権教材に取り組んでいく。	・あいさつ運動の取組が随分と進められていることはとても良いことである。人間形成の根幹の部分であるので、学校だけでなく地域活性化のためにも、継続して取り組んでいきたい。 ・五條学を活用し、ふるさとを自慢し、ふるさとを誇ることができる子どもの育成を今後も進めてほしい。 ・よりよい人間関係を築くことのできる子どもの育成のため、特別活動や道徳等を通して、SSTや人権教育、心の教育等を進めて欲しい。
	○五條の「ひと・もの・こと」に出会い、五條の自然や生活、歴史や文化、人々の良さに気づき、発信することを「五條学」と位置づけ、地域に誇りをもつ児童を育成する。	地域ボランティアとの連携のもと、ふるさと学習の深化、充実を図り、ふるさとの良さを発信したいと思う児童の割合を8割以上にする。 『五條学』を計画的に進め、学んだことを次の学年に引き継いだり、ほかの学年や保護者、地域に発信したりする場面を意図的に設定する。	A			
	○学校教育全体を通して、「いじめのない学校づくり」を目指し、学校生活の中で、児童が明るく生き生きと活動できる環境づくりに努める。	定期的な児童共有やSGとの連携によるアセスメントを行うとともに、いじめ対応校内委員会を設置し、いじめの早期発見及びいじめへの対処等を組織的に行う。	A			
心身ともに健康健全な生活を目指す。	○児童が自ら進んで規範意識と基本的な生活習慣を身につけようとする意識を高める。	『五夢りん宣言』を題材にした授業や月ごとの振り返りを行うなど、自己の生活を見直し、「五夢りん宣言をしっかり守り、けじめのある生活をしている児童」を8割以上にする。 小中で連携したアウトメディアの取組や『元気アップ週間』の取組を通して、基本的な生活習慣を高めるとともに、平日にスマホ・ケータイを長時間使用(ゲームや動画など)している児童を2割以下にする。	B	○『五夢りん宣言』をしっかり守り、けじめのある生活をしている」と回答した児童の割合が85%と目標を超えた。 ●意識しているときはできるが、廊下を走ったり、服装が乱れたりする児童が一定数見られた。 ○『元気アップ週間』の結果より、平日のスマホ・ケータイの長時間使用(4時間以上)児童は11%と目標を達成できた。 ●平日2時間以上利用している児童が、まだ4割いることが課題である。 ○体育委員会、運営委員会による外遊びチャレンジ記録会で意欲を高めることができ、登録数目標600を達成することができた。 ●体育の授業の中で外遊びチャレンジを行うことで、実際の体育の活動時間を減らしてしまうことがあった。 ○「体を動かすことが好きだ」と回答した児童の割合が98%に達した。 ●高学年女子で運動に苦手意識をもっている児童の割合が31%と高い。	・特別活動の学級活動(2)で「五夢りん宣言」の授業を行い、一人一人の目標を決め、実践につなぐ。 ・特別活動の学級活動(3)で話し合いを行い、メディアとの関わり方について自己決定させる。 ・健康面や学習障害、危険性からのアプローチを行い、スマホ等との上手な付き合い方を教えていく。 ・1学期にネット・スマホ出前講座を開催し、保護者啓発を行う。 ・体育委員会による外遊びチャレンジの啓発活動を行い、外遊びチャレンジ記録会を継続実施する。 ・外遊びチャレンジウィークをもうけ、意欲を高める。 ・運動領域別の資料を参考にしながら、運動に苦手意識をもっている児童へのアプローチを考えた授業展開を行う。 ・けんばーロードや大縄跳び、一輪車・竹馬検定など、日常から体育的活動にふれる機会を増やすよう工夫を行う。	・『元気アップ週間』の取組は、子ども達の意識を高めるきっかけになっていると思う。定期的な取組を行うことで、自分自身を省みることができる。考える。 ・五夢りんの5つのドリームボールそれぞれをパワーアップさせることを、今後も学校全体で行ってほしい。 ・家庭と協力し、眠育や食育を推進し、家庭学習の定着にもつないでほしい。 ・体力面でも全国と比較してはどうか。
	○様々な運動に対しての体の動かし方やコツがわかる授業作りと、体育的活動を充実させ、児童の体力の向上と運動好きの増加を図る。	1年間を通してなわとび運動に取り組むとともに、外遊びチャレンジ登録数を600以上にする。 学習カード等を活用して個々の目標を設定させ、意欲をもって運動に取り組むことのできる授業を行い、体を動かすことが好きだという児童を8割以上にする。	A			
			A			
働き教職員改革の推進	○教職員が心身共に健康で、充実した教育活動を行える環境を整える。	ICT機器を活用した業務改善やノー残業デーの設定、業務についての話し合いの場を定期的に設けるなどの取組により、1ヶ月の全職員の平均時間外勤務を45時間以内にする。	B	B	B	○4月、6月以外の月で全職員の平均時間外勤務を45時間以内にすることができた。 ●退勤後も持ち帰って仕事を行わないと仕事が片付かないこともある。 ・教育の質を高め、教員本来の業務の時間を確保するために、業務の改善ができる場所を出し合っていく。 ・教職員の働き方改革は早急に対応すべき課題である。引き続き業務改善の取組を進めてほしい。 ・分業制の組織づくりを。
今年度の成果と次年度への課題	○めあてと振り返りを重視した『5小スタンダード』を意識した授業を展開することで、『授業が楽しい』と答える児童の割合が92%に達した。 ○『5Gプロジェクト』を年間を通して取り組んだことで、挨拶をする習慣が児童につき、主体的にあいさつする児童が増えた。また、『あいさつ名人』を表彰することにより、学校全体として継続的な挨拶への意欲が高まった。 ○楽しいと思える体育の授業や、外遊びチャレンジに全校で取り組むことで、『体を動かすことが好きだ』と回答した児童の割合が98%に達した。 ●学習意欲と学力に二極化が見られることから、全ての児童が『わかった』『できた』を実感できる授業を提供するための教材研究、教師の授業力の向上を図る必要がある。また、東京書籍のテスト結果から見えてきた本校の課題「読む」「書く」の力の向上のため、漢字の書き取りテストや、作文指導等を計画的に行う必要がある。 ●全校児童が『学校が楽しい』と感じられることを目指し、児童会や学級会等を更に推進し、より楽しい学校・学級にするための話し合い活動を行わせ、児童主体の学校改善を図りたい。 ●『平日に、スマホ・携帯を2時間以上使用している』とアンケートで答えた児童が4割いることから、家庭への啓発はもとより、外部講師を招いてのメディアリテラシー講座や、中部学園で連携したアウトメディアの取組を、継続して行う必要がある。					